

エコアクション21

環境経営レポート

2023 年度

(期間：2023 年 7 月 1 日～2024 年 6 月 30 日)

発行日：2024 年 9 月 30 日



株式会社 **マイスター**

<https://ymeister.co.jp>

目 次

1. 組織の概要	3
①事業所概要	
②エコアクション 21 推進体制（組織図）	
2. 認証・登録の範囲	4
3. 環境経営方針	5
4. 環境経営目標	6
5. 環境経営計画	7
6. 環境経営目標の実績及び評価	8
7. 環境経営計画の取組結果とその評価、 次年度の取組内容	10
8. マイスターの環境への取組	12
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	14
10. 代表者による全体評価と見直し・指示	15

1. 組織の概要

①事業所概要

1) 事業者名及び代表者名

株式会社マイスター

代表取締役社長 高井 糧

2) 所在地

本社工場及び第2工場 〒991-0061 山形県寒河江市中央工業団地 156 番地 1

横浜営業所 〒225-0013 神奈川県横浜市青葉区荏田町 1150-42

※ 第3工場（寒河江市中河原 127-1）は現在稼働していない

3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 総務部 羽柴 健一

連絡先 電話 0237-86-4500（代表） FAX 0237-86-0252

URL <https://ymeister.co.jp>

E-mail somu@ymeister.co.jp

4) 創立年月日

1976年7月1日

5) 資本金

3,600万円

6) 事業内容 精密機械部品及び切削工具加工製造

切削工具加工部品、特殊工具加工部品



精密治工具製造、精密機械部品製造

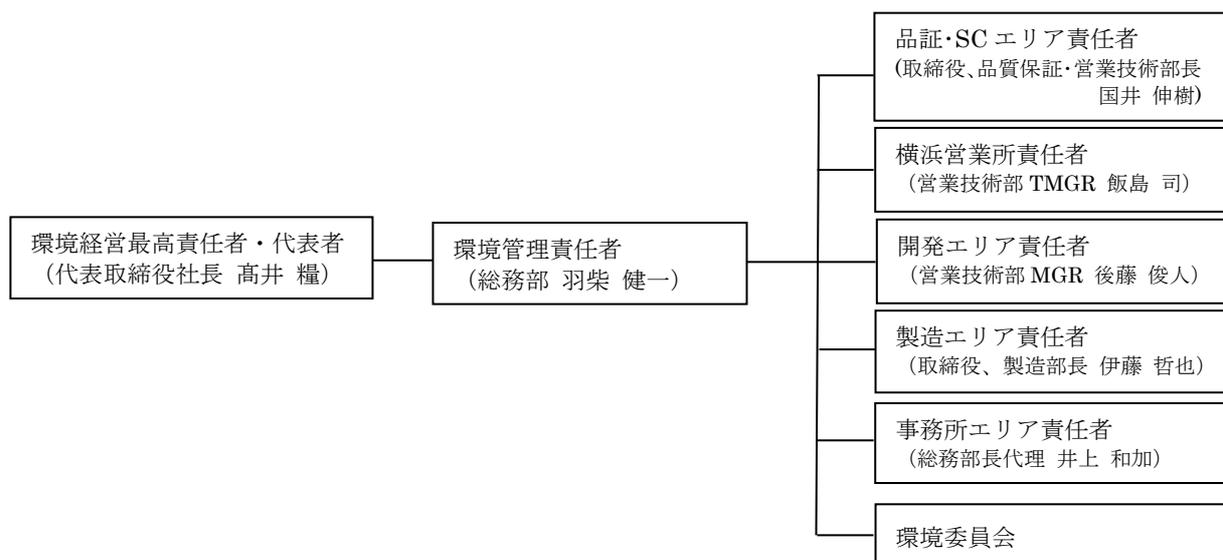


7) 事業規模

	単位	2021年度 2021.7.1~2022.6.30	2022年度 2022.7.1~2023.6.30	2023年度 2023.7.1~2024.6.30
総売上高	百万円	1,063	1,083	951
月平均売上高	百万円	88.5	90.2	79.3
従業員数	人	78	79	81
延べ床面積	m ²	4330.13	4330.13	4330.13

②エコアクション 21 推進体制（組織図）

【(株)マイスター 環境マネジメント組織図】



● 役割、責任、権限

環境経営 最高責任者 (代表取締役 社長)	環境経営に関する基本理念・長期戦略・基本方針を制定し、経営における課題とチャンス を明確にして環境目標を設定し、全社員に周知する。
	環境管理責任者をはじめ必要な責任者を任命して実地体制を構築し、全従業員に 周知する。当該責任者には現在の責務に関わりなく役割、責任、権限を明示する。
	環境経営システムの構築・運用・維持に必要な経営所資源（人材・資金・機器設備・ 技術技能を含む）を準備する。
	環境経営システムの構築・運用に関する情報を収集し、方針・目標をはじめ、シス テム全体の見直しを行い、必要あれば改訂を指示する。
環境管理 責任者	当社代表者（環境経営最高責任者）に代わってガイドラインの要求事項を満たす環 境経営システムを構築・運用し、その状況を環境最高責任者に報告する。
	環境経営に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するた めに、環境経営推進委員会組織を運営する。
エリア責任 者	環境経営推進委員会の構成員として、環境経営最高責任者及び環境管理責任者を補 佐し、掌括範囲内の全員参画による、環境経営システムの運用と改善を推進する。
	また、自己の管理範囲内において、全員参画による環境経営システムの運用及び管 理に責務を負い、部門内の必要な人材育成、パフォーマンスの向上を図る。
部署長	自己の管理範囲内において、全員参画による環境経営システムの運用及び管理に 責務を負い、部署内担当者の選任・必要な教育訓練、パフォーマンスの向上を図る。
総務部	記録の作成、管理、システム運用上の事務管理を行う。
環境委員会	環境改善に関する会議・活動を実施する。
全社員	環境経営方針・計画の理解と実施を行う。

2. 認証・登録の範囲

株式会社マイスター

本社工場及び第 2 工場 〒991-0061 山形県寒河江市中央工業団地 156 番地 1
横浜営業所 〒225-0013 神奈川県横浜市青葉区荏田町 1150-42

3. 環境経営方針

—— 株式会社マイスター ——

環境経営方針

<基本理念>

株式会社マイスターは地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、「感謝・還元・久遠の社会」を合言葉に、全組織をあげて環境負荷の低減に努力します。

<行動指針>

株式会社マイスターは精密機械部品及び切削工具加工製造に関わる全ての生産又は消費活動とこれらの製品及びサービスの環境影響を低減するために、環境経営システムにより以下の環境保全活動を推進します。

1. 事業活動の全領域で、安全・安心を図り、省資源・省エネルギー・資源循環・エコライフ・製品含有規制化学物質管理などに配慮したモノづくりを行います。
2. 当社の生産又は消費活動、製品及びサービスに係わる環境関連法規、その他の要求事項を遵守し、環境汚染を未然に防止すると共に、環境経営システムと環境保全実績が継続的に改善できるように推進します。
3. 次の項目を重点的なテーマとして環境目標を設定し、状況に合わせて目標を見直すなどの効果的な取り組みを行います。
 - (1) 二酸化炭素の削減
 - (2) 廃棄物の分別・削減及びリサイクルの促進
 - (3) 化学物質使用量の削減
 - (4) 総排水量の削減
 - (5) 工場周辺の清掃等社会貢献
 - (6) グリーン購入の推進
4. 環境保全関連の行政機関・団体等の環境保全施策に協力すると共に、最上川の水環境をはじめ、地域社会の環境保全活動に協力します。
5. 一人一人が環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、社内における環境保全状況の知識・認識の向上を図ると共に恒久的な環境に配慮した経営を推進します。このため、この環境宣言を全従業員に周知し、社外へも公表します。

上記の方針達成のために、目標を設定し、定期的に見直し環境経営システムを推進します。



改定日：2015年4月1日

制定日：2008年7月1日

株式会社 マイスター
代表取締役社長 高井 糧

4. 環境経営目標

●主な環境目標と中期目標、担当部署責任者

No.	重点目標	2023年度 目標	2024年度・2025年度・2026年度 目標	責任者
1	(省エネルギー化) 二酸化炭素削減	売上 100万あたりの 排出量 2022年度比 1%削減	売上 100万円あたりの排出量 前年比 1%削減	製造部長
2	(廃棄物削減) 一般・産業廃棄物削減	売上 100万円あたりの 廃棄量 2022年度比 1%削減	売上 100万円あたりの廃棄量 前年比 1%削減	製造部長
3	(省資源化) 事務用紙使用量削減	2014年割合の維持 (維持目標)	2014年割合の維持 (維持目標)	総務部長
4	(グリーン調達) グリーン購入推進	2014年割合の維持 (維持目標)	2014年割合の維持 (維持目標)	総務部長
5	(地域社会との環境調和) 清掃等社会貢献	年 2 回実施	年 2 回実施	総務部長
6	(総排水量削減) 水使用量削減	一人当たり水量の管理 (維持目標)	一人当たり水量の管理 (維持目標)	総務部長
7	(化学物質使用量削減) 化学物質使用ゼロ	使用ゼロ	使用ゼロ	製造部長
8	リサイクル刃物の回収量	2014年収集量の維持 (維持目標)	2014年収集量の維持 (維持目標)	営業技術 部長

当社では二酸化炭素排出や廃棄物の削減について、2015年以降より売上高100万円当たりの削減率を取り入れた目標を設定し取り組んでいます。その他の項目も維持目標としており、特にエコアクション21の認証以前から当社独自で取り組んできたレアメタルのリサイクルについてはマスターらしいあたりまえの活動として今後も維持・継続してまいります。

また、目標としてはおりませんが、企業として社員の健康維持と増進に努め、健全で働きやすい職場を作ることが環境全体の負荷を軽減することになる、と言う視点から「健康エコアクション」に取り組んでおり、日本健康会議様より『健康経営優良法人2024』の認定も受けております。

その他、経営者が率先してデジタル技術による社会変革を踏まえた経営ビジョンの策定・戦略・体制の整備を行い、DX推進の準備が整った企業を認定する『DX認定事業者』、若者の採用・育成に積極的で、若者の雇用管理の状況などが優良な中小企業を認定する『ユースエール認定』、誰もがいきいきと働き、幸せに暮らし続けられる山形県に向けて、「ワーク・ライフ・バランス」や「女性活躍」の推進に取り組んでいる企業等を県が認定する『やまがたスマイル企業認定』など社員が働きやすい環境にするための取組を行っており、それらの様々な認定もエコアクション21の活動に繋がっています。



【健康経営優良法人 2024】



【DX 認定事業者】



【ユースエール認定】



【やまがたスマイル企業認定】

5. 環境経営計画

活動・取組項目		活動の具体的内容	
1.1	省エネルギー化(電力)	1.1.1	設備電源の空転時停止
売上100万円当りの使用量 2022年比1%減(単位kwh)		1.1.2	エアコン温度・運転の適正管理
		1.1.3	休憩時間の不使用箇所の消灯
		1.1.4	廊下やトイレの不必要な電灯の消灯
		1.1.5	空調機のフィルターの点検清掃
		1.1.6	自動販売機の見直し
		1.2	省エネルギー化(灯油)
売上100万円当りの使用量 2022年比1%減(単位kwh)		1.2.2	デマンド警告による空調温度管理
		1.2.3	クールビズ・ウォームビズ励行
		1.2.4	空調機の見直し
		1.3	省エネルギー化(ガソリン)
売上100万円当りの使用量 2022年比1%減(単位kwh)		1.3.2	エコドライブ項目実施
		1.3.3	エコドライブ研修と情報発信
		2.1	廃棄物削減(一般廃棄物)
売上100万円当りの使用量 2022年比1%減(単位kwh)		2.1.2	ゴミ箱の統一と表示
		2.1.3	梱包資材の再利用
		2.2	廃棄物削減(廃金属)
売上100万円当りの使用量 2022年比1%減(単位kwh)		2.2.2	小まめな分別後の廃棄実践
		2.2.3	廃棄物の再利用
		2.2.4	通い箱化の推進
		2.3	廃棄物削減(廃油)
売上100万円当りの使用量 2022年比1%減(単位kwh)		2.3.2	廃油処分の管理見直し
		3	省資源化
売上100万円当りの使用量 2014年の水準に維持する		3.2	裏面の再利用
		3.3	パソコン・電子メールの活用
		3.4	コピー用紙使用量の管理
		4	グリーン調達
2014年の購入割合を維持する		4.2	エコ商品への切り替えの推進
		5	環境調和
工場周辺の清掃等社会貢献活動 年2回実施(単位:回)		5.2	里山保全活動
		5.3	工場間移動時のゴミ拾い
		6	総排水量削減
一人当たりの市水使用量 2014年の水準に維持する		6.2	水道水使用の節約(水遣り)
		7	化学物質使用量削減
化学物質使用ゼロを目指す			
8	その他	8.1	環境活動の情報発信
数値目標のない取組		8.2	環境に関する改善提案や標語の募集

6. 環境経営目標の実績及び評価

● 2023年度目標の達成状況

No.	重点推進項目 (削減目標)	単位	2023年度 目標	2023年度 実績	達成率 %	適合性評価 ○：目標以上 △：80%以上 ×：80%未満
1	二酸化炭素排出量 売上 100万円あたりの排出量 2022年度比 1%削減	kg	434.4	515.7	84.2%	△
1-1	電力使用量 売上 100万円あたりの使用量 2022年度比 1%削減	kWh	741.6	881.5	84.1%	△
1-2	灯油使用量 売上 100万円あたりの使用量 2022年度比 1%削減	ℓ	8.32	10.31	80.7%	△
1-3	ガソリン使用量 売上 100万円あたりの使用量 2022年度比 1%削減	ℓ	11.11	12.15	91.4%	△
2-1	一般廃棄物削減 売上 100万円あたりの廃棄量 2022年度比 1%削減	kg	2.69	3.42	78.7%	×
2-2	産業廃棄物削減（廃金属） 売上 100万円あたりの廃棄量 2022年度比 1%削減	kg	0.46	0.21	219.0%	○
2-3	産業廃棄物削減（廃油） 売上 100万円あたりの廃棄量 2022年度比 1%削減	ℓ	9.51	10.03	94.8%	△
3	事務用紙使用量削減（コピー用紙） 2014年割合の維持 (維持目標)	枚	180,000	267,500	-	維持目標
4	グリーン購入 推進 2014年割合の維持 (維持目標)	%	68.60	64.20	-	維持目標
5	清掃等社会貢献 (地域社会との環境調和) 年 2 回実施	回	2	3	150.0%	○
6	一人当たり水量の管理 (維持目標)	m ³	0.62	0.70	-	維持目標
7	化学物質使用量 削減 使用ゼロ	kg	0	0	100.0%	○
8	リサイクル刃物の回収量 2014年収集量の維持（維持目標）	kg	1,578.6	914.0	-	維持目標

※ 1 の二酸化炭素排出量について本社工場は 2017 年度実績の東北電力㈱の調整後排出係数 0.523 kg-CO₂/kWh を、横浜営業所は 2017 年度実績の東京電力エナジーパートナー(株)の調整後排出係数 0.462 kg-CO₂/kWh を使用して計算しております。

●環境負荷実績

環境への負荷		単位	2021年	2022年	2023年	
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg	517,101	475,202	483,110	
② 廃棄物排出量及び 廃棄物最終処分量	一般廃棄物	t	3.44	2.94	3.20	
	産業廃棄物	廃金属	t	1.73	0.50	0.19
		廃油	t	6.20	10.40	9.40
③ - 1 総排水量	公共用水域	m ³	-	-	-	
	下水道	m ³	886	618	641	
④ - 2 水使用量	上水	m ³	886	618	641	
	工業用水	m ³	-	-	-	
	地下水	m ³	-	-	-	
④エネルギー使用量	購入電力（新エネルギー除く）	MJ	8,784,491	7,974,853	8,132,900	
	化石燃料	MJ	738,608	754,645	748,730	
	新エネルギー	MJ	-	-	-	
⑤製品生産量	その他	t	23.60	25.00	19.80	

※購入電力の二酸化炭素排出量は、本社工場は2017年度実績の東北電力(株)の調整後排出係数0.523 kg-CO₂/kWhを、横浜営業所は2017年度実績の東京電力エナジーパートナー(株)の調整後排出係数0.462 kg-CO₂/kWhを使用して計算しております。



【講師を招いた環境活動についての研修会】



【会社周辺の公道清掃】



【弓張平の里山保全活動】



【回収されたリサイクル工具】

7. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

●環境経営計画の取組結果とその評価

○・・・できた △・・・あまりできなかった ×・・・できなかった

※【数値目標】については ○:目標以上 △:80%以上 ×:80%未満

	活動の具体的内容	評価	取組結果
1	省エネルギー化(二酸化炭素) 【数値目標】	△	
1.1	省エネルギー化(電力) 【数値目標】	△	設備電源の空転時停止やエアコンの管理、電気の消灯などエコアクション21取得当初よりの取組みについては徹底している。また空調機のフィルター点検清掃は設備保全委員会の取組みにより定期的に行うことができた。しかし、売上は減少したにもかかわらず、設備使用を含めた電気使用量は増加という結果だった。これは酷暑などの影響により空調の使用量が増えたことも要因の一つと考えられる。また、電気使用量の大きい自動販売機の見直しも考えたが実行までには至らなかった。
1.1.1	設備電源の空転時停止	○	
1.1.2	エアコン温度・運転の適正管理	○	
1.1.3	休憩時間の不使用箇所の消灯	○	
1.1.4	廊下やトイレの不必要な電灯の消灯	○	
1.1.5	空調機のフィルターの点検清掃	○	
1.1.6	自動販売機の見直し	△	
1.2	省エネルギー化(灯油) 【数値目標】	△	灯油炊きの空調機を使用しており、酷暑の影響で灯油の使用量は増えた。空調機についてはより高性能な電力の空調機への入替を検討している。デマンド警告が出た場合の空調温度管理については各現場の責任者にすぐ連絡が行くようにしており素早く対応している。また、空調機だけに頼らないよう、クールビズ、ウォームビズによる服装による対応も行った。
1.2.1	室温設定管理	○	
1.2.2	デマンド警告による空調温度管理	○	
1.2.3	クールビズ・ウォームビズ励行	○	
1.2.4	空調機の見直し	△	
1.3	省エネルギー化(ガソリン) 【数値目標】	△	ガソリン使用量は減ったものの売上也減少しているため目標未達となった。エコドライブ項目の実施は行っているが、計画に入れたエコドライブ研修等は実行できなかった。今後も引き続き計画に入れてエコドライブ研修や情報発信を行って削減意識の向上に努めたい。
1.3.1	アイドリングストップ	△	
1.3.2	エコドライブ項目実施	○	
1.3.3	エコドライブ研修と情報発信	×	
2.1	廃棄物削減(一般) 【数値目標】	×	廃棄物については達成率80%以下の結果となった。廃棄区分毎の分別や梱包資材の再利用など削減の取組は行ったが実際にゴミを出さない、増やさない等の意識に繋がっていない。きちんとゴミを減らすための情報発信や意識向上の取組みを行っていききたい。
2.1.1	廃棄区分毎の分別	○	
2.1.2	ゴミ箱の統一と表示	△	
2.1.3	梱包資材の再利用	○	
2.2	廃棄物削減(廃金属) 【数値目標】	○	廃金属についてはきちんと分別すればリサイクルできるが分別できなければ廃棄物として処分しなければならない。今回目標達成できたのはこまめに分別してリサイクルできた結果だと思えます。今後もこまめな分別によるリサイクルを進める。お客様に金属のリサイクルを進めてもらうための通い箱については現在増減はない。
2.2.1	廃棄区分毎の分別	○	
2.2.2	小まめな分別後の廃棄実践	○	
2.2.3	廃棄物の再利用	○	
2.2.4	通い箱化の推進	△	
2.3	廃棄物削減(廃油) 【数値目標】	△	分別をしっかりと行い、廃油処分を年2回の大掃除のタイミングで行うことでしっかりと比較することで増減のを分かるようにした。売上は減っているものの廃油量は変わらないため削減の取組を検討する。
2.3.1	廃棄区分毎の分別	○	
2.3.2	廃油処分の管理見直し	○	
3	省資源化 【数値目標】	維持	省資源化については維持目標としているが、2014年度と比較して約1.5倍となっている。両面コピーや裏面の利用などは出来たものの目に見える削減効果は出ておらず、削減に繋がる取組をしなければならない。まずはきちんとした管理を進めて原因の把握を行い、効果的な取組を検討していききたい。
3.1	両面コピーの活用	○	
3.2	裏面の再利用	○	
3.3	パソコン・電子メールの活用	○	
3.4	コピー用紙使用量の管理	△	
4	グリーン調達 【数値目標】	維持	グリーン調達については維持目標としている。備品購入についてはHPでカタログを確認して購入を進めており、エコ商品があるものはそちらを選択して購入するようにした。
4.1	エコ商品カタログの活用	○	
4.2	エコ商品への切り替えの推進	○	

■ 昨年の環境経営レポートで『次年度の取組内容』として取り組んだ内容と評価

	活動の具体的内容	評価	取組結果
5	環境調和 【数値目標】	○	目標である年2回の活動のほか、新入社員教育でも工場周辺の清掃を行った。また、5月と9月には里山保全活動も行った。工場移動時のゴミ拾いや清掃活動も徹底しており工場内外とも綺麗に維持できた。
5.1	工場周辺の清掃	○	
5.2	里山保全活動	○	
5.3	工場間移動時のゴミ拾い	○	
6	総排水量削減 【数値目標】	維持	総排水量については維持目標としている。手洗いについてはポスター等による周知を行い使用量削減に取り組んだ。会社周辺の植木への水遣りについては令和元年よりポンプ故障のため地下水を使用しておらず節水はしているものの上水の増加に繋がっている。
6.1	手洗い水と洗剤の節約	○	
6.2	水道水使用の節約(水遣り)	△	
7	化学物質使用量削減 【数値目標】	○	これまで化学物質の使用は行っていない。引き続き化学物質使用ゼロを目指していく。
7.1	調達資材の確認	○	
8	リサイクル刃物の回収量 【数値目標】	維持	リサイクル刃物の回収については以前より回収量は減ったものの、企業の刃物のリサイクルの意識は高まっており、弊社としても啓蒙活動として推進していきたい。環境に関する情報発信や改善提案、標語の募集も進めることができた。
8.1	環境活動の情報発信	○	
8.2	環境に関する改善提案や標語の募集	○	

■ 昨年の環境経営レポートで『次年度の取組内容』として取り組んだ内容と評価

●次年度の取組内容

	活動・取組項目	活動の具体的内容
1-1	省エネルギー化(電力)	事務所、本社工場の照明のLED化の推進 設備の効率的な使用についての教育(コンプレッサーのエア使用や漏れチェック) 設備の電流をモニタリングして効率的な使用をするための取組 廃棄ダストを利用した排熱処理の実施 空調使用量増減妥当性のチェック(毎日の気温の確認)
1-2	省エネルギー化(灯油)	高効率の空調機への入れ替えの検討
1-3	省エネルギー化(ガソリン)	ドライレコーダーを利用した安全運転診断の活用
2	廃棄物削減(全体)	廃金属の分別による処分ではないリサイクルの推進
2-1	廃棄物削減(一般廃棄物)	廃棄物の処分方法の現場への周知と削減意識の向上
3	省資源化(コピー用紙)	システム導入によるコピー用紙使用量の減少 用紙使用のチェック表を活用し部署毎の目標値を定める
4	グリーン調達	購買管理システムを活用したグリーン調達の推進
5	環境調和	村山の山小屋と弓張平の山小屋それぞれに訪問し保全活動を行う
6	総排水量削減	地下水を活用した総排水量の削減
7	化学物質使用量削減	化学物質使用量ゼロの維持
8	その他	SNSの更新と年3回の社内報での環境活動報告による啓蒙活動 環境活動についての改善提案提出を推進する グリーン調達やJ-クレジット制度などへの参画を検討

8. マイスターの環境への取組

業務効率を上げて残業時間を削減

業務を見直して無駄な工程を削減し、無駄な残業を減らすことで省電力化へ寄与する取組を行っています。方法としては業務の標準化とマニュアル化、作業工程の見直し、設備、システムの導入などがあります。具体的には産業用ロボットの導入による省人化、DX推進の取組の一つのRFIDシステム導入による効率化などを行っています。



また、業務効率アップのため社員のスキルアップにも力を入れており、製造の現場社員の方には技能検定、現場以外の社員の方にはビジネス・キャリア検定の受験補助や報奨金制度を取り入れています。今年度は新たに4名の技能士、1名のスペシャリストが生まれました。



クリーン作戦

日頃お世話になっている地域への貢献活動として毎年2回、全社員で工場周辺の公道や近隣公園の草むしりやゴミ拾いを行っています。今年は約100kgの廃棄物を回収しました。



避難訓練

想定される環境における緊急事態について、環境への影響を最小限に食い止めること、内外への連絡を円滑に行うこと、可能な範囲で事前に想定・準備することを念頭に置いて避難訓練を行っています。今年度は地震による工場火災を想定して訓練を行いました。



山小屋訪問

人と自然が共存し持続可能な生活を実現するため里山保全活動を行っています。今年度は5月に新入社員への環境への取組の啓蒙として弓張平の山小屋へ訪問しました。



9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

(1) 当社に適用となる主な環境関連法規

見直し: 2024年5月13日

法令等の名称	活動内容	評価
水質汚濁防止法	事故時の応急処置と届出書の提出	○
下水道法	公共下水道使用開始届の提出 事故時の応急処置と届出書の提出	○
消防法	少量危険物等貯蔵取扱届出書の提出	○
西村山広域行政事務組合火災予防条例		○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法)	産業廃棄物マニフェストによる管理 産業廃棄物の委託契約の締結 ①産廃物が飛散、流出、地下浸透しない措置をする ②保管場所に掲示板(60cm×60cm以上) 【産業廃棄物管理票交付等状況報告書: 2023/4/26提出】	○
山形県産業廃棄物の処理に関する指導要綱	産業廃棄物管理責任者を置く 産業廃棄物を種類毎に区別して保管する マニフェストを管理する。	○
特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	家庭用機器の長期間使用とリサイクルのための 特定廃棄業者への引渡し	○
使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	自動車の長期間使用と再資源化配慮した購 入選択	○
工場立地法	特定工場新設(変更)届出書の提出	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)	①対象空調器の簡易点検の実施(1回/3か 月)、圧縮機出力7.5kW以上のものついて、定 期点検の実施(1回/3年) ②機器更新時に、適正・確実な回収・破壊	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管 理の改善の促進に関する法律(化管法)	対象物質の排出量・移動量を把握	○
RoHs指令、ELV指令等 含有化学物質規制	製品への含有化学物質禁止規制	○
国等による環境物品等の調達の推進に関する法律 (グリーン購入法)	環境負荷の物品調達の選択	○

(2) 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

2023年度において環境関連法規等は遵守しており、違反はありません。

また、関係当局からも特に指摘は無く、過去19年間、訴訟も同様に有りません。

10. 代表者による全体評価と見直し・指示

2024年の製造業の景気は、中国経済の減速や原材料費・燃料代・人件費の高騰、輸出数量の伸び悩みなどにより悪化しました。弊社にとっても原材料や燃料代等の価格高騰は経営に直結し、仕事量も昨年と比較して減少するなど事業計画通りの推進は厳しい状況でした。しかし、半導体需要や自動車生産の持ち直しなど前向きな情報もあり、今後はそれらの市場開拓や材料ロスの削減、不良率の低減など社員一丸となって取組み、持続可能な循環型社会の実現と会社の発展に努めてまいります。

今年度は環境経営目標の多くが未達という厳しい結果となりました。取組は実行してきたものの、それが目標と連動していない結果となりました。弊社の環境経営目標は売上100万円あたりの排出量や廃棄量を比較しており、生産活動の状況により各種項目の結果が左右されます。そのため省エネルギー化や廃棄物削減の部分で未達となった項目も多くありました。

ただし、それだけでなく環境活動が習慣化されている反面、その意図や意義についての理解が薄れている傾向があります。また、この1年間で14名の採用があり、マイスターの環境への取組みに対する教育についても不足していました。そのため全社員による積極的な活動につながらなかったと考えられます。今一度基本に立ち返り、環境活動に対する理解を深めるとともに、社員全員で取り組む意識づくりが必要なタイミングです。

廃棄物の削減については分別による廃棄物自体の処分量の抑制とリサイクルの強化を計画しております。また、省資源化についてもコピー用紙の排出量が増えており、喫緊の課題として位置づけ社内プロジェクトを創設し、県内のIT企業と連携してペーパーレスを推進していきます。

また、昨年度地域の自然環境を維持するために取得した山林の保護活動も行っておりますが、J-クレジット制度なども絡めた活動に昇華させてまいります。

そして、我々の行っている切削工具再研磨や特殊工具への改造などの事業は、一度破砕して再び焼結・加工を行うことで大きなエネルギー負荷をかけるマテリアルリサイクルなどと比べても、環境負荷を最小限に抑えて、工具としての機能を回復、改善させるサービスだと自負しておりますが、それがどのくらい環境に寄与しているかが顧客や社会に示しにくい状況にあります。弊社製品が、負荷低減の程度を数値で示し、環境認証やグリーン調達に貢献できるかどうか検討していきたいと考えております。

AIの発展や設備のロボット化など今後ますます自動化が進み、エネルギー使用量も増加していくと考えられます。エネルギー使用量が増加した分は作業効率を上げて対応しなければなりません。弊社の製品はお客様の生産の効率化に寄与するためのものです。弊社の道具を使っただけはお客様の環境、ひいては世界の環境負荷を低減することに貢献します。今後も環境負荷低減に向けて企業の成長と環境経営目標達成を実現できるよう取り組んでまいります。

2024年9月2日

株式会社マイスター 代表取締役社長 高井 糧

代表者による全体評価・見直し指示

見直し項目	変更	指示事項等
1. 環境経営方針	無	全社共通として周知徹底する
2. 環境経営目標	無	全社共通として周知徹底する
3. 環境経営計画・取組項目	有	社員の意識づけに重点を置き、目標達成につながる取組みを検討実施する
4. 環境に関する組織	無	引き続き委員会と環境組織の連携を強化する
5. その他	有	グリーン調達やJ-クレジット制度などへの参画を検討する

